研究部だより No.11

令和4年12月発行

研究主題
新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる
～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～

11月18日、19日の2日間にかけて行われた、**「第33回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会秋田大会」**についてお伝えします。対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。当日は、全国から130名の参加がありました。今回は小学部、中学部についてお伝えします。

小学部　公開授業

小学部わかば学級　「チャレンジ!　カイト」

【児童の様子】

・前庭で大きいカイトを飛ばすためにみんなで大きいカイトを制作しました。好きな色の足を付けて大きなカイトを完成することができました。なかなかカイトがうまく上がりませんでしたが、諦めることなく、飛ばす場所を変えたり、走る人を変えたりして繰り返し上げようとする姿が見られました。

小学部　授業研究会

【協議会テーマ】児童の「夢中」「好奇心」を膨らませる仕掛けづくり

jam boardに出された意見から

教師の手本
力を合わせるとこんなにあがることを示す
Ex. 教師2人で確実にあげて見せる

役割分担
教師の役割分担による夢中になれる時間の明確化

時間設定
「夢中」になれる時間と子どもがじっくり考える時間の区別

なぜ？どうして？をじっくり考える時間を設定する

達成感、できる状況づくり
児童が、取り組んだことに対して達成感をもつ経験を積み重ねることが大切。そのためのできる状況づくりと教師の働き掛けがポイントだと考えます。

座談会の感想･御意見

学級ごとの発達段階に応じたねらいの設定が大切だなぁと改めて感じました。

素材に十分に触れる時間も必要だが、題材の幅を広げることの必要性も感じました。

児童主体での目標への接続に関しては、現在小学校で活発に行われていて、児童のやる気を活かした接続の方法もみられるため参考にすることができるのではないか。

児童の思いを授業に反映させていくことが大切だとわかりました。仲間と活動することが楽しいと思えるような声掛けや活動が仕組まれていたと思います。本日はありがとうございました。

子どもが実際に様々なことを試してみる時間を作ることや、子どもの発言や思いを拾い上げ、授業に広げていくことの大切さを感じる授業でした。ありがとうございました。

あらかじめいろいろな種類の材料を用意しておいて、児童が自分達で試行錯誤していく中で決定していくことで、その活動に自然にのめり込んでいくことに繋がっているのだと感じました。ありがとうございました。

研究協力者の先生から

〈秋田大学教育文化学部准教授　鈴木徹先生〉

・児童の発言や発想を取り上げて授業を行っている。Aの行動を待つ支援から、Aの様子をよく見取っていることが分かる。
・「楽しむ時間」の確保が必要である。児童にとって、どのくらいの時間楽しむことで「没頭」できるかを検討してほしい。
・児童の気持ちを高めて次に繋げる「やめ時」が課題である。
・単元や普段の生活でも変化する児童の姿を捉えて見取ることが大切。「エンジョイタイムで高めたい要素」の視点を基に児童を見ることで見取りが深まっている。
・今後のエンジョイタイムでは、障害の重い児童に対してどのようにアプローチしていくかを検討してほしい。

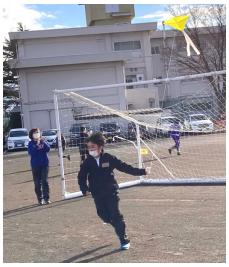
〈秋田県総合教育センター　主任指導主事　北島英樹先生〉

・本授業の学習は「染み込み型」の学習である。身近な友達や先生、親などへ憧れ、繰り返しまねをして時間をかけて学んでいく。学習指導要領における、学びに向かう力の「涵養」にあたる。様々な経験において人と関わることを通して学ぶという姿は「生涯学習力」の学びのモデルそのものである。
・「一人では難しいけれど誰かと一緒ならできる・できた」という経験を積み重ねてほしい。互いに関わり合いながら、自分もできるようになりたい、やってみたいと思うことが、一生続くことが「生涯学習」ではないか。

公開研後の授業の様子

【カイト名人とカイトをあげよう】

秋田県生涯学習奨励員の方をお招きし、小学部全員でカイトのあげ方を教わった。走り方や、糸の繰り出し方を教えてもらうと、学校の校舎より高くあげることができた。「こうやってあげたら高くあがった！大きいカイトもあげてみたい」と振り返り、授業後もカイトをあげる姿勢を確認する姿が見られた。



中学部　公開授業

中学部3年　生活単元学習「中3ファイブでバイキン0計画～あたらしいチャレンジpart4～」

【生徒の様子】
・中3では、次時に中2の生徒と石けんの作り方を教える交流があります。本時は、参加者に中2の生徒に役になってもらい授業を進めました。中2の生徒の名札を付けた参加者の名前を呼んだり、自分の役割に責任をもったりして活動しました。振り返りでは、自分の本時の活動の動画を見て、自己評価することができました。

中学部　授業研究会

【協議会テーマ】人との関わりを通して「やってみよう」「またやりたい」という意欲を育む支援

jam boardに出された意見から

研究協力者の先生から

〈秋田大学教育文化学部准教授　谷村佳則先生〉
・「自分たちで作った石けんでバイキンを0にしたい」という生徒の思いや願いから授業を設定していてよかった。
・生徒たちが「石けん作りを教える」学び方の設定、振り返りがなされていてよかった。振り返りは、生徒同士でやりとりができるとさらによいと思う。生徒同士の客観的な評価も大切である。
・学びの積み重ねを大切にし、成功体験からの自信、またやりたいという意欲が計られているように思う。

〈能代市教育委員会　特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷勝先生〉
・困ったときだけ教師が入り、基本的には生徒同士で授業を進めていてよかった。
・相手に伝わるように工夫できる場面を設定していた。
（ねらいの確認、声の大きさ、評価基準がある、視覚的な情報で説明、石けんの実物がある、自分の得意な工程を担当、数字を効果的に使い説得力がある、声の強弱がある、とっさに「少々お待ちください」など）
・動画での振り返りは客観的な自己評価につながる。他者評価もあるとさらよい。活動中の即時評価も大事にしてほしい。
・○×クイズでは、参加者とキャチボールできるような工夫があるとよかった。
・石けんを渡した時になぜ間違えて渡してしまったか考えることができると次につながっていくと思う。
・「転ばないように歩く力」ではなく、「転んだときに起き上がれる力」が身に付くように授業づくりをしてほしい。

公開研後の授業の様子

【中２と交流会をしよう】
　交流会では、中２に石けん作りを教えたり、クイズを出したりする場面で、自分の役割に自信をもち、大きな声ではっきりと伝えることができた。また、自分の担当するコーナーの準備を一人で責任をもって進めることができた。交流後は、「挨拶を頑張った、友達と準備を役割分担して進めた」「もっと元気に挨拶をしたい」など交流をした中２の友達のことを考えながら活動できたことを振り返ることができた。

next→ 公開研究協議会高等部の様子をお伝えします